

世界に羽ばたく  
科学系人材の育成!

# 小松SSHだより

石川県立小松高等学校

第7号 H26年2月  
編集 : SSH推進委員会  
発行責任者 : 西 清人

小松高校—韓国・大田科学高校

## 国際科学交流



12月15日(日)～18日(水)の3泊4日の行程で、本校から理数科2年生23名と引率教諭4名が、韓国大田(テジョン)科学高校との科学交流を行いました。

### 《 日程 》

- 15日 小松高校 → 韓国・大田市へ 歓迎夕食会など (大田市泊)
- 16日 大田科学高校にて科学交流(研究発表、校内見学など)  
韓国先端科学技術大学(KAIST)、衛星技術研究所(SaTReC)を見学 大田市 → ソウル市へ(ソウル市泊)
- 17日 国立果川科学館、ソウル大学を見学 (ソウル市泊)
- 18日 ソウル市 → 小松高校へ

### 15日(日)

10:00に小松空港に集合し、飛行機、KTXなどを乗り継いで17:00に韓国・大田市に到着しました。大田駅では大田科学高校の生徒、教職員の方々が出迎えてくれ、その後、歓迎の夕食会をしていただきました。



### 16日(月)

午前には、大田科学高校にて科学交流を行い、課題研究「正規直交規定を定めて内積空間をつくる」、「葉脈にニッケルめっき」の発表と、両校の共同研究「日韓両国の伝統的な帆船の帆の位置と安定性」、「オンドルの研究と日本のコタツとの比較」の成果発表を行いました。午後にはKAISTやSaTReCを見学し、最新技術やエネルギー問題などについての講義を受けました。



### 17日(火)

午前国立果川科学館を訪問、見学しました。また午後にはソウル大学を訪問し、大学の担当の方に構内を案内してもらいました。



### 18日(水)

早朝6:00にソウル市内のホテルを出発し、12:00に無事小松高校に帰ってきました。

### 《生徒の感想》

- 大田科学高校の生徒とのコミュニケーションを通して英語の表現力が高まりました。
- 発表の質問にうまく答えることができず、自分の英語力不足を感じました。英語をもっと勉強するべきだったと切実に思いました。
- 韓国の生徒たちと過ごす時間がもっと欲しかったです。

## 薬学部実験セミナー（総合科学・ときめき理数科学 特別実習）

1月29日（水）、理数科1年生40名が、北陸大学薬学部にて「総合科学（保健分野）」と「ときめき理数科学（化学分野）」の特別実習を行いました。テーマは「実践科学者としての薬剤師」で、北陸大学薬学部 医療薬学講座教授の村田慶史先生、助教の礮部隆史先生、臨床薬学教育センター准教授の小藤恭子先生に指導していただきました。はじめに、村田先生から医療現場における薬剤師の役割について、小藤先生から薬剤の種類についての講義を受け、その後、体験実習として、軟膏剤、内服薬の調剤を行いました。



講義



体験実習（調剤）



## 生徒課題研究ポスター発表会（課題探究）

理数科2年生40名が課題研究のポスター発表会を行いました。1月29日（水）には普通科理系2年生に向けて、2月5日（水）には理数科1年生に向けて行いました。また、外部審査員として1月29日には渡辺正夫先生（東北大学大学院教授）に、2月5日には山部昌先生（金沢工業大学教授）、吉本達治先生、井川健太先生（いずれも石川県立小松明峰高等学校教諭）に参加していただきました。



## 福井合同課題研究発表会（ポスター発表）

2月16日（日）に福井県民ホール（アオッサ）で福井県合同課題研究発表会が行われました。本校からは理数科2年生11名と生物部4名が参加し、課題研究の「葉脈にニッケルめっきⅢ～複合めっきへの挑戦～」、「新型蓄電池の開発」、「水滴の水面衝突音の解析」と生物部の研究の「レインボー植物をつくろう～維管束の分岐を調べる～」、「ダイコンの煮沸による変化」のポスター発表を行いました。



## 日本数学オリンピック 第1次予選

1月13日（月・祝）、石川県文教会館にて日本数学オリンピックの第1次予選がおこなわれました。本校からは、今年度は1年生6名、2年生10名が参加し難問に挑戦しました。全員集中して全力を尽くし、1名が地区表彰賞を受賞しました。来年こそは全国大会出場とがんばっている生徒もいます。

平成25年度最終号となりました。今年度は、3年生理数科の「科学探究」の研究授業があり、3年生のみなさんは多くの先生方の前で実験に取り組んでくれました。2年生の「課題探究」は各グループが競い合って研究を行い、例年にない盛り上がりを見せました。その結果、どのグループの研究もとてもレベルの高い内容に仕上がりました。1年生も「科学の甲子園」石川県予選で優勝するなど、大活躍の1年間でした。来年度もがんばって、毎日の勉強に、研究に取り組んでほしいと思います。